

あわじ環境未来島総合特区 金融支援（利子補給金）の活用（平成29年度実施）

特区の目的・事業概要

- ・本特区は、「生命(いのち)つながる『持続する環境の島』をつくる」を目標に掲げ、淡路島固有の文化や価値を、将来の長きにわたって繋いでいく。
- ・淡路地域は、エネルギーと食料の自給自足をともに実現できる恵まれた地理的条件が最大の強みである。
- ・特にエネルギー分野では、太陽光利用が進んできたが、未利用地への大型施設設置が一巡し、新たな展開を検討していた。
- ・本事業は、農業用ため池に太陽光パネルを浮かべて発電し、売電収入をため池保全等に地元還元するという新たな可能性を提案している。

特区における効果

- ・淡路島内に多く存在するため池の活用策として、さらに多くの太陽光発電所整備につながる可能性があり、ため池への太陽光パネル設置が、地域の新たな収入確保策となり得る。
- ・産官学金が連携した取組であり、地域貢献型発電事業として、更なる循環型モデルの提案や島内他地域への横展開も見込める。
- ・再生可能エネルギー等を最大限活用することにより地域を活性化し、地域が自立するための一つの方策を示すことで、『持続する環境の島』という目標に大きく寄与している。

事業イメージ



塔下新池ため池ソーラー発電所

設置規模 72.8kW
年間発電量 8.6万kWh
竣工 平成29年1月

龍谷フロートソーラーパーク洲本

設置規模 1,706kW
年間発電量 207万kWh
竣工 平成29年9月



・事業主体は、龍谷大学教授が非営利株式会社として設立したPS洲本(株)